

2012年4月10日
東日本旅客鉄道株式会社

2012年秋、東京駅が生まれ変わります！

～ 情報・文化の発信拠点が続々オープン！！さらに便利な駅へ！！ ～

東京駅は、2012年10月の「丸の内駅舎復原工事」完成にあわせて、日本の表玄関にふさわしい、歴史と先進性が融合した魅力あふれる駅に生まれ変わります。6月より、駅施設が順次本格稼働するほか、以下の施設等がオープンしてまいります。

1. さらに便利な駅へ

- (1) JR EAST Travel Service Centerにて、訪日のお客さま向けのサービスを提供します
- (2) 中央通路に「CentralStreet(セントラルストリート)」がオープンします
- (3) 北通路の改良工事に着手します

2. 歴史と文化を感じさせる駅へ

- (1) 東京ステーションギャラリーで復原工事完成記念展「始発電車を待ちながら」を開催します
- (2) 東京ステーションホテルの宿泊予約を2012年5月8日(火)より開始します
- (3) 復原された東京駅の魅力をご紹介するツアーを開催します

1. さらに便利な駅へ

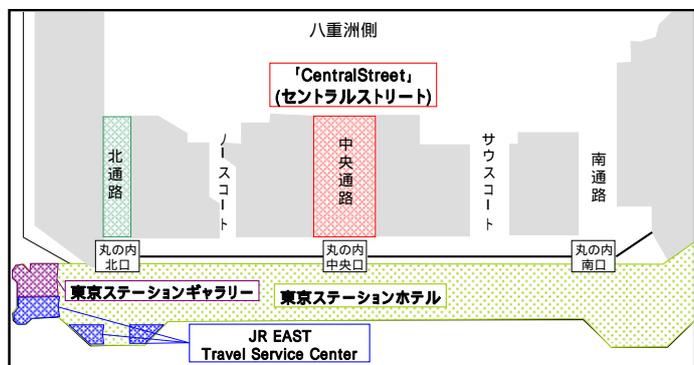
お客さまへの情報発信拠点と快適にご利用いただける通路の整備を推進してまいります。

(1) JR EAST Travel Service Center

10月1日に開設する「JR EAST Travel Service Center」では、海外から日本を訪れたお客さま向けに、以下のとおりサービスを提供してまいります。

開業予定 : 2012年10月1日(月)
営業時間 : 7:30～20:30(年中無休)
対応言語 : 英語・中国語・韓国語・
日本語

施設概要 : 旅行カウンター(Japan Rail Pass、JR EAST PASS、JR Kanto Area Pass等の引換・発売)、観光案内所(JR東日本エリアを中心に全国の観光情報に対応)、外貨両替所、ATM、手荷物関連サービス所



(2) 東京駅改札内1階中央通路に、「CentralStreet(セントラルストリート)」誕生！

これまで東京駅では、日本のセントラルステーションとしての利便性向上を目指し、「SouthCourt(サウスコート)」、「NorthCourt(ノースコート)」、「KeiyoStreet(京葉ストリート)」など、エキナカ施設のリニューアルを行ってまいりました。そして本年10月に、丸の内駅舎のグランドオープンにあわせて、改札内1階中央通路は、明るく開放感のあるデザインを採用し、店内にLED照明を設置するなど環境にも配慮した「CentralStreet(セントラルストリート)」として生まれ変わります。

これまで丸の内側にあったインフォメーションセンターを移転し、お客さまがご利用しやすくするとともに、ご縁の結び目でありたいという「Link Japan」をコンセプトに、雑貨、弁当、スイーツから、お土産や贈答品とバラエティ豊かな店舗とともに、新たな駅のメインストリートとして日本国内や世界中からお客さまをお迎えいたします。(施設概要は別紙1参照)



現在の中央通路



「CentralStreet(セントラルストリート)」(イメージ)

(3) 東京駅北通路の改良工事について

現在の東京駅改札内北通路は、他の改札内の通路と比べて幅員も狭く混雑しているほか、天井も低いため、2016年度中の使用開始を目指して、この北通路を生まれ変わった駅舎にふさわしい、明るい開放感のある通路に改良してまいります。

< 主な改良内容 >

| | 改良後 | 現 状 |
|----------|-------|------|
| 通路幅員(最小) | 10.0m | 6.7m |
| 天井高(最低) | 2.6m | 2.2m |

2. 歴史と文化を感じさせる駅へ

歴史や文化の魅力があふれる東京駅を楽しんでいただける施設・イベントを展開してまいります。

(1) 東京ステーションギャラリーで復原工事完成記念展「始発電車を待ちながら」開催

「駅を単なる通過点でなく薫り高い文化の場として皆さまに提供したい」との願いで誕生した東京ステーションギャラリーでは、「丸の内駅舎復原工事」完成を祝い、「最先端のアート」と「東京駅の歴史ある空間」を同時にお楽しみいただける「始発電車を待ちながら」展を開催いたします。2006年の休館以来、6年ぶりの丸の内駅舎内での展覧会となりますので、身近な素材を使った作品など、美術ファンのみならず、どなたでも親しみをもって楽しんでいただけるような魅力溢れる作品を展示いたします。

開催期間 : 2012年10月1日(月)~2013年1月下旬
開館時間 : 平日 11:00~20:00 土休日 10:00~18:00
休館日 : 毎週月曜日(祝日の場合は翌日の火曜日)、
年未年始及び展示替期間中

入館料 : 500円

内容 : 場所にこだわりを持って制作活動を行っている作家が東京駅をテーマとして新たに制作した作品や、鉄道を制作の重要な発想源としている作家の作品を展示

出品作家 : 秋山さやか、大洲大作、クワクボリョウタ、
柴川敏之、パラモデル、廣瀬通孝、廣村正彰、本城直季、ヤマガミユキヒロ、他
(プロフィール等は別紙2参照)



2階展示室(イメージ)

(2) 東京ステーションホテル宿泊予約開始

東京ステーションホテルは、2012年10月3日(水)の開業を控え、5月8日(火)10:00から、電話とホテルホームページによる宿泊予約を開始します。

宿泊予約受付

受付開始 : 2012年5月8日(火) 10:00より

電話受付 : 10:00~18:00

電話番号 : 03-5220-1112(宿泊予約)

ホームページ : <http://www.tokyostationhotel.jp>

客室タイプ : 6タイプ

客室数 : 150室

丸の内エリアを眺めることができる「パレスサイド」やゆとりある空間の「スイート」をはじめ、ドーム内のレリーフが見られるお部屋や2階建て構造のお部屋など、6つのタイプの客室をご用意しました。(ホテルの概要は別紙3参照)



「パレスサイド」イメージ



「スイート」イメージ

(3) 復原された東京駅の魅力をご紹介するツアーの開催

2012年秋頃より、大人の休日倶楽部会員やびゅう旅行商品をご購入されたお客さま等を対象に、復原された東京駅の魅力をご紹介するツアーを開催いたします。

復原に使用された素材やドーム部分を彩るレリーフなど、東京駅の建築様式の魅力を専門のガイドがご案内します。また、歴史的な出来事が起こった場所など、トリビアスポットもご案内する計画です。詳細は、改めてお知らせいたしますので、是非ご期待ください。

「CentralStreet(セントラルストリート)」全体概要

- ・所在地: 東京都千代田区丸の内1-9-1 JR東京駅改札内1階
- ・店舗面積: 約860㎡
- ・店舗業種: 食物販、雑貨、駅弁など

(1) コンセプト 「Link Japan」

日本国内や世界中からお客さまを迎え入れ、各地へ旅立たれるお客さまを送り出す東京駅。セントラルストリートは、「人」と「人」、「都心」と「地方」を繋ぎ、「日本」と「海外」を繋ぐ…そんなご縁の結び目でありたいという気持ちを込めています。

(2) 展開内容

① 「駅」のセレクトゾーン

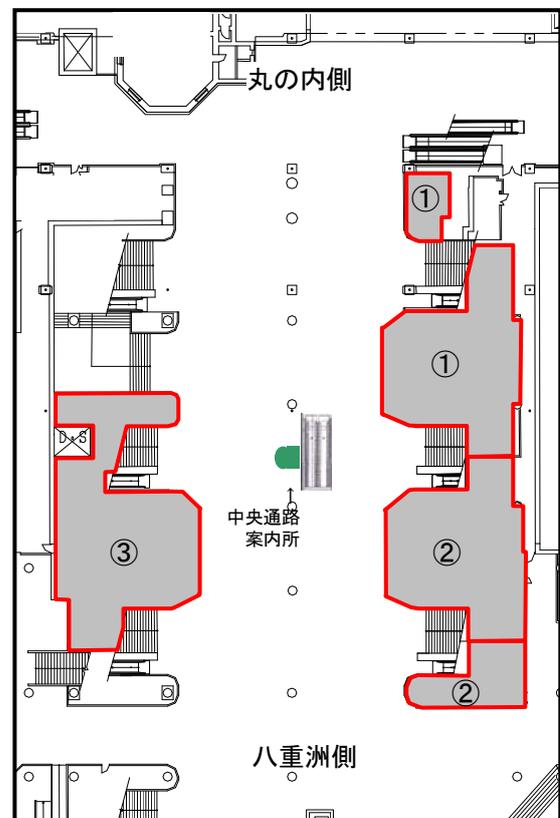
本格的なベーカリーから旅の1ページを彩る銘店弁当まで駅の幅広いニーズを意識した「食」を提案するとともに、情報発信性のあるトレンド雑貨、利便性を追及したコスメ・ドラッグなど、選りすぐりのアイテムが詰まった「トランク」のようなショップを展開する予定です。

② 駅弁専門店

日本全国の「駅弁」を専門的に取り扱う、東京駅の新しい名所がオープンします。全国津々浦々の有名駅弁をはじめとして、店内の「ライブキッチン」で作ったできたてのあたたか駅弁など、さまざまな駅弁を提供いたします。

③ ギフトゾーン

お土産や贈答品としてだけでなく、ご自宅でも気軽にお楽しみいただける銘菓やスイーツを、バラエティ豊かな店舗で取り揃えます。



(3) 店舗エリアの開業時期

8月中旬頃～12月中までに5つのエリアが順次開業する予定です。

(4) 店舗運営

- (株)鉄道会館(代表取締役社長 野崎哲夫)
 - (株)日本レストランエンタプライズ(代表取締役社長 浅井克巳)
- 施設全体の統括管理を(株)鉄道会館が行い、商品やサービス、キャンペーン施策などにおいて、一体的に展開します。

企画展「始発電車を待ちながら」主な出品作家

あきやま
秋山さやか

1971年、兵庫生まれ。作品を展示する場所で一定期間を過ごしなが、そこを起点に日々あるき、現地で収集した糸やさまざまな素材を、地図などにひと針ずつ縫い付けていく独自のスタイルで制作する。

「ベルリン 東京」展(ベルリン新国立美術館、2006年)、「ステッチ・パイ・ステッチ 針で描くわたし」展(東京都庭園美術館、2009年)などに出品、フィリップモリスアートワード大賞(2000年)、公益信託タカシマヤ文化基金・タカシマヤ美術賞(2010年)受賞。



(地をうごく
若柴
柏の葉キャンパス
大宮 仙台
山形県庁前
上桜田 山形
柏西口 若柴
2010年
11月17日,18日)

2010年、パークシティ
柏の葉キャンパス
二番街蔵

さまざまな糸、メモ書きの切りぬき、切符、駅弁など食べ物や飲み物の包み紙やいも煮など山形土産の切れ端、などなど 柏と山形道中で見つけたもの / ポリエステル布に昇華プリント

おおずだいさく
大洲大作

1973年、大阪生まれ。日常や旅の中で列車などの車窓に広がる風景を、窓に踊る光やスピード感、あるいは土地の風物や生活に滲む情感と重ね合わせて撮影し、心に映る光景として描き出す作品「光のシークエンス」などを発表。現在、風景の奥に潜むものを炙り出す写真作品「INVISIBLE COUNTRY(仮題)」を平行して制作している。

個展「光のシークエンス」(京都 space B、2010年)、東日本大震災復興支援チャリティ写真展“FOR YOUR SMILE 311”(大阪 中之島デザインミュージアム、2011年)、個展「INVISIBLE COUNTRY(仮題)」(ベルリン、2012年)。



(Hirosaki Station(作品「光のシークエンス」より)
弘前駅、青森県 / 2008年) ©Daisaku OZU

クワクボリョウタ

1971年、栃木生まれ。エレクトロニクスを使った作品を数多く発表。人と作品の関係性を重視した親しみやすいメディアアート作品は、国内外で高い評価を得ている。「10番目の感傷(点・線・面)」は、照明を落とした展示室にライトを付けた模型の電車を走らせ、線路の周囲に置いた日常品を照らすことで、床・壁・天井に次々と動く影が広がり、特異な空間を作り出す。

第7回文化庁メディア芸術祭アート部門大賞受賞(2003年)、第14回同優秀賞受賞(2010年)、芸術選奨新人賞受賞(2011年)。



(10番目の感傷(点・線・面)) 2006年
© 2010 クワクボリョウタ
撮影:木奥恵三
写真提供:NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]

しばかわとしゆき
柴川敏之

1966年、大阪生まれ。イタリアのポンペイ遺跡などに触発され「2000年後から見た現代社会」という壮大なテーマをもとに活躍する。全国のミュージアムをはじめ、街の商店街や歴史的建造物での、地域や場所にこだわった展覧会やプロジェクトを精力的に行い、ユニークなワークショップを通して、ものの存在や現代の諸問題を見つめ考え直す活動も続けている。

「2000年後の美術館 プロジェクト」(高知県立美術館、2008年)、「2000年後の未来遺跡」(青森県立美術館、2008年)、「2000年後の冒険ミュージアム」(広島県立歴史博物館、2003年)。



(PLANET ICON
(2000年後に発掘された
招き猫の化石))
2008年
ミクストメディア

パラモデル

大阪出身の林泰彦(1971年生)と中野祐介(1976年生)が2001年に結成したユニット。模型や青いレールの玩具、塩ビパイプなどを床から天井まで縦横無尽に走らせ、生きもののように増殖させる。「玩具・日用品を用いて、机上を大きくはみだし、世界全体で模型遊び」を繰り広げ、世界的にも高い評価を得る。

個展「パラモデルの 世界はプラモデル」展(西宮市大谷記念美術館、2010年)、「パラモデルのプラモデルはパラモデル」(国際交流基金ベトナム日本文化交流センター、2012年)など開催。

ひろせみちたか 廣瀬通孝

1954年、神奈川県生まれ。東京大学大学院情報理工学系研究科教授。専門はシステム工学、ヒューマン・インタフェース、バーチャル・リアリティ。Sharelogは、科学技術とアートの接点を探るデジタル・パブリックアートの研究プロジェクトから生まれた。交通系ICカードをかざすと、過去の利用履歴がスクリーンに映し出される。鑑賞者は、利用した駅の記憶を思い出すとともに、電車に乗るという行動をこれまでとは異なる視点で体験できる。

著書『バーチャル・リアリティ』(産業図書)、総務省情報化月間推進会議議長表彰、東京テクノフォーラムゴールドメダル賞、大川出版賞受賞。

ひろむらまさあき 廣村正彰

1954年、愛知生まれ。田中一光デザイン室を経て、1988年、廣村デザイン事務所設立。商業店舗や企業ビル、公共施設などのVI(グラフィカル・アイデンティティ)やサイン計画を数多く手がける。デザインは、情報を「伝える」と同時に、「気づき」をもたらす役割をおり、そこから生まれるコミュニケーションが、生活をより「豊か」にするというメッセージをこめる。

日本グラフィックデザイナー協会新人賞(1987年)、N.Y.ADC 銀賞(1995年)、グッドデザイン賞金賞(2010年)など受賞。主な著書に『空間のグラフィズム』(六耀社、2002年)。鉄道博物館のロゴを制作(2007年)。

ほんじょうなおき 本城直季

1978年、東京生まれ。中央はピントが合ったように鮮明に、上下はぼんやりとさせ、「あおり」と呼ばれる遠近法を用いて都市を俯瞰で写す。建築物や自動車など「人工物」と、そこにうごめく人影との対比がジオラマを眺めるような感覚を引き起こさせる。

個展「Play Room」(クリテリオム 67 水戸美術館、2006年)開催。2006年、写真集『small planet』(リトルモア)を刊行し、第32回木村伊兵衛写真賞を受賞。また同年よりANA 機内誌『翼の王国』に写真連載中。

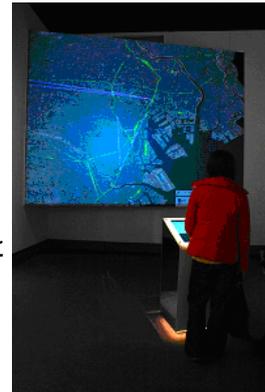
ヤマガミユキヒロ

1976年、大阪生まれ。ある風景を細密に描いた上に、同じ場所で撮影した映像を重ねるキャンバスプロジェクションのスタイルで作品を制作。時の経過や光のうつろいまで表現された作品によって、鑑賞者は日常的な都市の風景に潜んだ美しい表情に気づかされる。

「京都府美術工芸新鋭選抜展」(京都市文化博物館、2005年)、個展「Sheltering Sky」(京都 Gallery PARC、2011年)、第11回岡本太郎現代芸術賞特別賞受賞(2008年)。



(パラモデルリック・グラフィティ) 2011年
©paramodel, photo: paramodel
国立国際美術館「世界制作の方法」展より



(Sharelog)
2006年



個展「ジュングリンソー意識が動く瞬間」2011年
(西武池袋本店 西武ギャラリー)より



(small planet - tokyo-station) 2004年
(朝日新聞出版寄託 川崎市市民ミュージアム蔵
木村伊兵衛写真賞受賞作品
courtesy of nap gallery



(Sheltering Sky)
2011年
canvas projection
(pencil on panel,
HD video projector,
Blu-ray video)
110cm x 210cm
9分8秒
写真撮影:草木貴照

THE TOKYO STATION HOTEL



東京ステーションホテル(英語名:The Tokyo Station Hotel) 概要

東京ステーションホテルは 1915 年に開業し、名門ホテルとして多くのお客さまにご愛顧いただきましたが、丸の内駅舎保存・復原工事のため 2006 年 3 月より休館しております。現在準備を進めている新生・東京ステーションホテルは、国の重要文化財である駅舎の格調、およそ 100 年にわたり積み重ねてきた歴史、そして先進性を備えた唯一無二なホテルとして新たな歴史を歩み始めます。

延床面積 : 20,800 m²

階 層 : 地下 2 階-4 階(一部)

客 室 : 150 室(ツイン 86 室、ダブル 64 室) 標準的な客室タイプ 約 40 m²

料飲施設 : フランス料理、日本料理、中国料理、バー、ラウンジ ほか

宴会場 : 3 会場

コンセプト : 「伝統が息づく、ここにしかない OMOTENASHI」

そ の 他 : フィットネス&スパ ほか

全 150 の客室は、東京駅丸の内駅舎の 2 階から 4 階(一部)に位置し、標準的な客室タイプが約 40 m²とゆとりのある広さです。歴史的建築物の修復・改修で高い評価を得ている英国の Richmond international Ltd.が、「ヨーロッパ・クラシックスタイルと現代デザインの調和」というデザインコンセプトのもと、客室を含む施設全体のデザインを監修しました。ヨーロッパテイストにモダンなエッセンスを添えた上質で洗練された内装と、約 3.7m(3F は約 3.0m と約 4.0m)の天井高や縦長窓による開放的な空間が特徴です。

客室タイプは 6 種類とし、このほか、丸の内駅舎の中央最上部には、宿泊者のみが利用可能なラウンジ「アトリウム」をご用意しました。最大天井高が約 9m で、ライブラリースペースやミーティングルームを備えます。朝には、大きな天窓から射し込む自然光のもと、優雅な朝食をお楽しみいただけます。



丸の内駅舎外観イメージ



「アトリウム」イメージ

< 6種類の多彩な客室 >

- 「クラシック」 皇居側と反対側に位置する客室です。ビジネスでの滞在にも適した標準タイプの客室です。
- 「パレスサイド」 皇居側に位置する客室です。東京の中心地・丸の内エリアを眺めることができます。
- 「ドームサイド」 南北の丸屋根ドームに沿ってレイアウトされた客室です。天井が約4mもあるほか、今回復原されるドーム内のレリーフや人々の行き交う改札口の様子が目に映るロケーションが特徴です。
- 「メゾネット」 都心では珍しい2階建て構造の客室です。リビングと寝室に分かれ、居住性の高い空間をご提供します。
- 「スイート」 駅舎の角塔部分に位置する客室です。72㎡～120㎡のゆとりある空間に、シャンデリアやプロアバスなど、ワンランク上の設備を備えています。また、4室中2室はメゾネットタイプになります。
- 「ロイヤルスイート」 駅舎3階の中央部に位置する、最も広い173㎡の客室です。皇居へと続く行幸通りが窓の正面に広がり、ミーティングや会食も可能なリビングルーム、書斎、ウォークインクローゼットなども備えています。

客室の天井高は、2階が約3.7m、3階が約3m(ドームサイドのみ約4m)となります。



「ドームサイド」イメージ



「ロイヤルスイート」イメージ

< 料金一覧 >

| 客室タイプ | 広さ | 客室数 | 価格(1室料金) |
|----------|-------------------------|------|-----------------------|
| クラシック | 23 ~ 47 m ² | 29 室 | 30,030 円 ~ 56,595 円 |
| パレスサイド | 26 ~ 58 m ² | 81 室 | 35,805 円 ~ 76,230 円 |
| ドームサイド | 30 ~ 44 m ² | 28 室 | 38,115 円 ~ 56,595 円 |
| メゾネット | 65 m ² | 7 室 | 115,500 円 |
| スイート | 72 ~ 120 m ² | 4 室 | 207,900 円 ~ 346,500 円 |
| ロイヤルスイート | 173 m ² | 1 室 | 808,500 円 |

客室はツインもしくはダブルとなります。

上記料金はすべて、消費税・サービス料込み、宿泊税別の価格です。

チェックイン:午後3時 チェックアウト:午後12時